



発行者：NPO 法人 介護の家コスモス男山
〒614-8372 八幡市男山笹谷 4-2 D19-106
TEL：075-983-2737 FAX：075-983-2746
e-mail：kosumosuot@gol.com
ホームページ検索用語 ⇒「コスモス男山」
<https://kosumosuot.sakura.ne.jp/hp/>

エッセンシャルワークと福祉

新型コロナ下で注目された言葉に「エッセンシャルワーク」があったことを覚えておられるでしょうか。いま話題のAIのひとつ、ChatGPT を使うと次のような答えが返ってきた。

「エッセンシャルワーク(Essential Work)とは、社会や経済の基本的な機能を維持するために必要不可欠な仕事のことを指します。この概念は、特にパンデミックのような緊急事態時に重要視されることが多いです。」

その代表的な例として、医療従事者や警察や消防、食品関連、公共交通、エネルギー関連などをあげたが、福祉は含まれていない。重ねて問うと、ようやく福祉や農業、工業も含まれると回答した。

日本ではエッセンシャルワークを軽視する風潮がある。「工場で働く人は高卒で十分(勉強は不要)」という各地の首長の妄言があり、工業、商業、農業、福祉などの専門高校の志願者はどこも減少の一途をたどっている。先の首相は、自分が働くだけでなく、金にも働いて(稼いで)もらおうという、投資を強調する政策を推し進めた。金融教育が不要とは思わないが、その一方で働く現場の改善はおぎなりのままである。

では、エッセンシャルワークを啓発するにはどうしたらよいか。例えば、小学生向けの農業体験は、農業の盛んな地域では数多く実施されている。しかし、人力による田植え経験は無意味ではないが しんどい経験はかえって農業離れを起こすのでは、という危惧もある。現実の稲作は、高度に機械化された農業である。田植機やコンバインやドローンにも触れさせることで、それが就農だけでなく農業関連の技術開発にもつながるのではないかな。

福祉の分野でも、現場で働くことだけでなく、福祉施設の設計や機器の開発・販売などにも興味を持てるような施策も必要であろう。

監事 黒澤敏朗



コスモス アラカルト



恒例のハンドベル演奏と歌でクリスマスをお祝った利用者さんたち。
そこに「恋の季節」のメロデーにのつてコスモス専属エンターテイナーが登場！
やんやの喝采と棒でもって手荒い歓迎。笑いすぎてお腹が痛くなった方もいたとか。

冬のイベント「クリスマス会」

&「おじゃみ棒たおし」

コスモス男山では、職員が工夫を凝らして色々な手作りゲームを考え出しています。今日はおじゃみと棒を使って、何をするのかな？



さあ、始めるよ

そーっとおじゃみとってね。
棒を倒したら負けよ！

おーっつつと、セーフ！

あ〜、倒しちゃった。
失敗！失敗！

UR 花壇コンクールに応募



コスモス男山の北側にある花壇。花が好きな私たちが手入れをしています。利用者さんだけでなく、通りすがりの方が、いつも立ち止まって花を愛でてくださいます。その一人に勧められて、URの共同花壇コンクールに応募しました。

花壇の土づくり。環境に配慮し、公園の掃除などで出た枯れ葉、事業所や喫茶店が出た茶殻などを利用し、農薬は使いません。予算と相談しながら、春から夏、夏から秋の花壇へと変化をもたせて、年間を通して楽しめるようにしています。

今年の夏は特に暑かったので職員だけでなく近くの保育園の園児さんも毎日水やりを手伝ってくれました。おかげで枯れる事なく生き生きと咲いてくれましたが、コンクールの結果は残念ながら入賞を逃がしましたが、近所の方のささやかな憩いのスポットになっていることを嬉しく思っています。

介護職員 堀之内・角

《コスモス文庫との出会い》

コスモス文庫との出会いは偶然でした。

お昼休みの散策中、カフェに目にとまり何気なく入りました。自分がほっと一息つける場を探している所でした。2階にコスモス文庫があると知り、早速階段を上りました。

理事長や職員の方々との団欒、時には相談にものって頂きました。今では、本を1冊選び翌月返却するのが日課になっています。



コスモスへ向かう途中で聞こえるご利用者様の歌声や花壇のお花も楽しみです。温かく迎えて頂き、感謝しています。

中村

コスモス文庫は「軽食・喫茶おいでやす」の2階にある、どなたでも利用できる小さな図書館です。愛用くださっている中村さんからのオススメ本2冊、ご紹介します。

おすすめ本 by中村

①「クリスマスのものがたり」



フェリクス・ホフマン著
しょうのこうきち訳
(福音館書店、1975年)

正統派のキリスト生誕物語を正面から捉え、スイスの画家ホフマンの遺作となりました。こどもから大人まで本物のクリスマスのメッセージが伝わります。絵のタッチは素朴ですが、媚びない迫力があります。読後、80代の母の知人へ贈った1冊です。

②「子どものための精神医学」



滝川 一廣著
(医学書院、2017年)

児童精神医学を事例も交え、丁寧に分析・解説されています。推薦人中井久夫氏の著書に魅了され、手にした1冊です。「発達特性」を知るだけでは理解の難しい子どもたち。「心の生が毛」を守り育てるヒントを得られます。

シリーズ 認知症と私④

今回も、利用者さんに日々向き合っておられるご家族が寄せて下さったエピソードをご紹介します

「怒り」モードから「許せるモード」に！

オール電化にして早十六年になる。妻の認知症を初めて感じた頃である。調理中のガスの止め忘れ↓道に迷う↓幻視・幻聴・徘徊↓感情失禁「怒りモード」↓歩くのを怖がる・言葉の意味が分からない、と進行してきた。

現在は重度心身障害者で、自身でできることは何もない。そして妻の「怒りモード」は衰退した。日常の信頼関係が築けたのか「怒りモード」が影を潜め、「許せるモード」が芽生えた！私にも、である。

先日食事をしていて、ちよつと気を抜いた隙に、焼酎のコップの中に汚れたティッシュを放り込まれた。そんな時「あゝ」と言って一緒に笑う。いつの間にか私にも「許せるモード」が芽生えていたのである。

今ではそんな妻に複雑な感謝の気持ちである。

M・K



職員 22 名参加

BCP 研修

BCP とは、自然災害や感染症の流行があっても業務を継続、早急な復旧ができるための計画のことです

～参加職員の声～

研修、避難訓練、計画書の検証でつねに起こりうるという事を頭に入れておきたい。また備蓄用品がどこにあるか確認できたらと思う。
介護（魚野洋子）

全員で学ぶという事は大切であり有意義であったと思います。今回の研修は続けるべきだと思います。
研修をきっかけに、送迎時の対応も自分で調べました。その時、実践出来る様心掛けたいと思います。
送迎（田中一夫）



みんな 来てね～！！

災害・感染症に強い コスモス男山を作る！



事業継続計画(BCP)
職員研修

やって来るだろうその日のためにみんなで考えよう
みんなで確認しよう！

日時: **9月21日(土)**
17:00~18:30
ケア会議終了後続けて **106** で

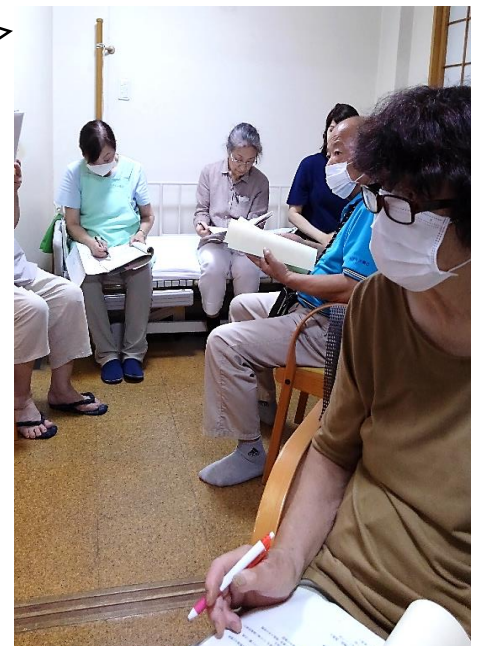
BCP 策定委員会

詳細な事業継続資料を作っただき、事業所にある備蓄品、停電対策を知れました。また様々なハザードマップが添付されていたので、それぞれで自宅の場所を確認できて、とても分かりやすかったです。
事務（田中瑞絵）

この1回で終わらせず、BCP 委員会で見直すべきところは見直して実際に役立つものを作っていく。そのためには職場全体の力を借りながら準備することが大切だと思う。BCP 委員（萬田久美子）

日常生活の中で、高い所にあまり物を置かないように、ドアの前も物を置きすぎないように心がけ、水、食品、電池などの簡単に用意しておける物は、日頃から確認しておこうと思います。
配膳（中久保明子）

感染症対策は基本的な手洗い、うがい、マスク等のルールを厳守し、利用者等、周囲の状況を十分に観察し臨機応変に対処するように心がけたい。
介護（堀之内みち子）



コスモス文芸

「だんだん句会」は、毎月二回男山団地中央センター「だんだんテラス」で開催されています。

昨年十一月、「だんだん句会」から五人の句友が参加し、府立八幡支援学校高等部福祉総合科の生徒さんと俳句を作って楽しみました。地元の人たちと交流を深める「授業交流」としてこの五年ほど続いています。生徒さんたちは「コスモス男山」で職場実習もされています。

初日は双方が俳号で自己紹介。秋の句材を探しに三十分ほど校庭に出ました。そして教室に戻って作句開始。アツという間の初日でした。

十日後の二回目。教室には初日の五句と宿題の五句を短冊にして貼りだして、さあ「句会」の開始。生徒さん、他科の先生方、だんだん句会のメンバー計十五人の選句と講評です。「そこに秋を見つけた大発見！」「その下五で動作が実にいきいき！」「俳句のベテランが作った句のよう！」等々、大盛り上がり。ほめられて嬉しくて涙ぐむ生徒さんもいました。生徒さんが作った句の一例は・・・

朝露が 葉っぱの上で リラックス 千

秋の雲に サッカーボール けりあげる 冬道

おそい秋 季節はずれの 暑さかな 任天堂

赤もみじ ひらりひらりと 風にちる スイカ

栗拾い 踏むのが嫌だ 棘痛い 笑神

ど緊張 清掃検定 初紅葉 冬道



今回の交流で「俳句は楽しい」「自分の気持ち表現できる」という感想をいただき、生徒さんの個性も引き出せたようにも思えます。感動した生徒さんたちと記念写真を撮り、握手を交わし校舎を後にしました。

また交流できることを願っています。(だんだん句会 小笠原 信)

活動日誌 2024年10月～2025年2月

2月	2025年1月	12月	11月	2024年10月
1日	20日	19日	18日	1日
コスモスだより第55号発行 多職種連携を考える会 2名 避難訓練	第4回 定例理事会	消防点検	第4回 運営推進会議	コスモスだより第54号発行
14日	21日	17日	15日	8日
職員研修「高齢者虐待拘束予防を考える」	職員研修「排泄」について(介護職を中心に)	人権擁護・高齢者虐待防止研修会 1名	生産性向上、人手不足対策セミナー 1名	「きらっと☆シニア倶楽部」以降毎月第2、4火曜日開催
15日	22日	18日	15日	10日
職員研修「高年齢者虐待拘束予防を考える」	認知症対応型サービス事業管理者研修(23日) 2名	第4回 運営推進会議	介護の日講演会「在宅看取り」 1名	介護用品・機器の展示会 3名、11日 4名
18日	22日	18日	15日	18日
支援学校「職場実習」受け入れ(20日)	今後の活動予定	第5回 運営推進会議	二層協議体「災害時要援護者支援対策事業」について 2名	職場内サービスマニュアル評価会議(19日)

コスモス文庫『守り人』から短評

江藤淳『妻と私』 文芸春秋

保守派論客とされている江藤淳だが、時代時代で立脚点が異なり一貫性に欠けるという指摘もある。戦後民主主義の「虚妄性」を断じたり、60年安保に反対したことがあったが。彼が「心身の不自由は進み、病苦は耐え難し」という遺書を書き残し自殺したのが前世紀末の事。「妻と私」は単に病苦が原因でなく、1年前に癌により亡くなった妻の後追い自殺であろうことを語っている。妻・慶子さんに先立たれる悲哀を率直に吐露した作品。

高橋たか子『高橋和巳の思い出』 構想社

昔、一般教養の授業で「文学の責任」というテーマで講義があり、そこで高橋和巳を知った。以来彼が新左翼の広告塔となりシンパシーを感じていた。キリスト教に深く帰依した彼女の作品は私にとって深い断層を感じさせていた。にも拘らずこの書を開くきっかけとなったのは彼の臨終に至る経過、とりわけ彼と彼女の会話の中身が知りたかったという他愛もない発想からである。と同時に彼女が高橋和巳文学をして“虚無僧文学”と称した所以を紐解くために彼の初期作品を読み返したい気になってしまった、ということ。

(会員 井上和彦)

ニューフェイス紹介

今号から「コスモスだより」編集を担当することになりました。とはいえ、まだまだいろいろな方に教えてもらい手伝っていただきながらの作業です。早く慣れて、皆さんの負担を減らせるようにがんばります！

歌うこと、映画を見ること、本(漫画含む)を読むこと、編み物、旅行、柴犬、いろいろ大好きです。これからもよろしくお願いします。

広報担当 川崎裕子



編集後記

ミッションクリア！

第47号から第55号まで9回(3年間)コスモスだよりの編集に携わらせて頂きました。

ジグソーパズルのように、写真や記事を紙面にはめ込み、完成した時の達成感は大変素晴らしいです。

一番苦労したのは、第50号。

「50号達成記念に、関係者全員からコメントを貰おう！」

と言われた時には啞然としました。

「そんな文字だらけの紙面、どうすりゃいいの？」

初めての見開き、4〜5頁に、ツリーハウスからあふれ出たように配置した、14名のコメントを並べ終え、やれやれ。このアイデアは寝床の中で思いついた、イヤ降って来たもの。

第52号、連句の会の皆さんの「冬銀河」も楽しませて頂きました。

若い後継者、川崎さんにバトンを渡して、卒業します。貴重な経験をさせて頂いてありがとうございました。

光成明子